

白藍塾オリジナル

2018入試小論文分析&解答のヒント

2018年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●慶応・環境情報学部

今年度の課題で求められているのは、物語の創作だ。SFC、とくに環境情報学部は、過去にもいわゆる小論文以外に、企画書や研究計画書などの自由度の高い文章を書かせてきたが、今回の出題はそうした文章ですらなく、ほとんどの受験生がとまどっただろう。

設問の冒頭を読めばわかるように、この問題で試されているのは、「これまでにないビジョンやコンセプトを創り出す力」「ものごとを想像する力や自分が持っているイメージを他人に的確に伝える能力」なのだろう。ただし、とはいっても、120分で「これまでにないビジョンやコンセプト」に基づく独創的なストーリーを考え出すのはプロでも無理なので、「メッセージが明確かつユニークであること」「物語の内容がそのメッセージをうまく伝えていること」の2点を取りあえず重視して考えるのがよい。この課題をうまくこなせる受験生などほとんどいないと思われるので、以上の2点を最低限押さえられれば、十分合格のチャンスがある。

問題1～3はすべて連動しているが、まずは3つの資料を見て、何かユニークなメッセージ(テーマ)とつなげられないかどうかを考えてみる(資料をもとにせず、独自に考えることもできるが、それだとよほど創作力のある人でないと途方にくれるだけなので、やめたほうがよい)。哲学的・思想的・倫理的なメッセージでもよいし、現代社会の抱える問題に対するメッセージでもよい。ただし、教訓的な内容だけは、つまらないのでやめたほうがよい。選ぶ資料と大まかなメッセージ(テーマ)が決まったら、メッセージの内容を明確にするためにも、問3の答えを先に考えてしまう。その上で、そのメッセージを伝える(表現する)のにふさわしいストーリーを考えるとよい。ストーリー自体が独創的である必要はない。資料4の物語もちろん参考にはなるだろうが、そもそもプロの作家の作ったストーリーなので、同じようなレベルをめざす必要はない。ただ、ストーリーの組み立てやオチの付け方、資料の短い文の使い方(資料4の物語では、最後の場面に使われている)などは参考になるかもしれない。

書き方としては、4部構成を応用して、第1部で物語全体の予告をし、第2部で人物や状況などを説明し、第3部でクライマックスを盛り上げて、第4部でまとめるかオチをつける。第4部にメッセージを書くと、どうしても教訓的になるので、できれば第3部での出来事や描写にメッセージの内容を反映させるようにするとよいだろう。

メッセージを反映させやすいという意味では、資料4の物語のように、寓話タイプの物語にするほうが考えやすいだろう。いずれにせよ、物語の創作が課題だとしても、別に物語を組み立てる技術やストーリーとしてのおもしろさが問われているわけではないので、その点は注意してほしい。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://www.hakuranjuku.co.jp>